

オオウラギンヒョウモン

Fabriciana nerippe



種名

分類

タテハチョウ科

形態

前翅長 ♂ 30 ~ 38mm, ♀ 35 ~ 47mm。大きさには変異があるが、♀ は日本のヒョウモンチョウ類のうちで、もっとも大型になる。他のヒョウモン類との違いは、後翅裏面の地色が淡く、外縁に沿う銀白紋列の形がハート形。後翅裏面の褐色紋は、次種より小さく不鮮明。♀ は前翅表の第2 ~ 3脈上に2本の細長い発香鱗条がある。

分布

本州(陰岐島を含む)、四国、九州、産地は限られ、最近どこでも数が少なくなっている。

出現期

年1回の発生。6月上旬から羽化を始め、7月に多い。暖地では夏期はほとんど姿を見せず、9月になってから再び現れる。寒冷地では羽化が遅れるかわりに、夏期も引き続いて見られる。孵化した後、摂食せずにそのまま1齢幼虫で越冬する。

生態

かつては平地、都市近郊の河原・草地にも見られたが、ほとんど姿を消し、現在では人工的に火入れや草刈りをする牧草地、スキー場などに棲むことが多い。カルスト地形の草原でも見られる。♂は敏速に飛び回り、♀はあまり活発ではない。ヒメジョオン、オカトラノオ、アザミ類などで吸蜜する。

食樹

スミレ科のスミレなど。

幼虫
(幼生期)

体長 50mm。頭部は黒色。胴部は灰色のものから、黒褐色のものまで変異があり、棘状突起をもつ。

出現時期

(月)

—

—

1

1

1

6

7

:

1

10

10

11

--	--

その他

参考文献：検索入門 渡辺康之著 チヨウ